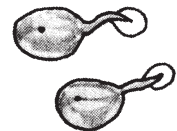


浄相院
だより

寿光

第52号

平成23年3月1日
発行：浄相院
畑中芳隆
〒332-0035
川口市西青木1-10-34
TEL 048 (251) 5984
FAX 048 (251) 5792



信じる力

住職 清譽 芳隆

当山では毎年正月中旬に新年役員会とあわせて修正会（今年一年が平穩であることを祈願する法要）をお勤めしております。今年はほとんどの方々が出席してくださり本堂での木魚念仏の音もよくそろってきてありがたく存じています。懇親会の後カラオケに行こうということになり駅近くの小さな店に入りました。その日は店主が自分の身内と過ごすために臨時休業になっていたところを総代さんの顔もあつて無理に開いてくれたのでした。私たちが一通り歌い終わって一段落しているときにふと隣に目をやると後からやってきた店主の娘さんらしき一家がテーブルを囲んでいます。ほろ酔い気分の私たちの歌ばかりを聞かせてしまったことが少し申し訳ないような気持ちになり、幼稚園児くらいの店主のお孫さんに歌を勧めました。

きりつとした面持ちのその女の子は臆することなく一家でステージに立ち歌い始めました。その歌はファンキーモンキーベイビート

いう男性三人組の『あとひとつ』という曲でした。

♪あとひとつぶの涙で ひと言の勇氣で
願いがかなうそのときが来るって
ぼくは信じてるから
きみもあきらめないでいて
何度でもこの両手をあの空へ のばして♪

さわやかな旋律にのってその子が歌詞のひとことひとことをかみくだくように一生懸命に歌う姿に思わず私たちは手拍子を送りました。とりわけ私のところに響いたのは「信じてるから」というフレーズです。この子が信じていることばの意味をどこまで知っているかは分かりませんが、幼い子が無心に「信じているから」と歌うその声を聞いた瞬間、私は身動きが出来ないほどの感動を覚えました。意味など知らなくてもいい。ただひたすらに何かを信じられればいい。信ずることに理屈などいらぬ。この子が私にこう言っているように感じられました。そのとき私はナムアマダブツのお念仏と同じなんだと確信した

のです。ただひたすらに阿弥陀佛の救いを信じることはこういうことかと思ひ知つたのです。

法然上人の念仏は愚鈍念仏といわれます。おろかだにぶい念仏ではありません。『愚かなほどに無心になえるお念仏』ということです。そこには損得勘定はありません。何回となればこんなご利益があるという意味などありません。ただ自分のありのままの姿を信じてお念仏をしてゆくなかにこそ幸せはあるのだと思います。それはこの女の子のように無心に歌っているそのこと自体がとても幸せなことであることと同じではないかと思われれます。

春のお彼岸がまた巡ってきます。

年年々々 花相似たり
歳々々々 人同じからず

無常の世に生きる私たちです。お念仏を申したそのあとにさつきとは少し違う自分を発見できればとても幸せなことかと思ひます。

